



大森勝山遺跡

弘前市 約3,000年前
史跡指定／2012年



現在の様子(再現された環状列石)



発掘調査風景



円盤状石製品

岩木山のふもとの環状列石

全国でも数少ない約3,000年前の環状列石で、整地と盛土を行った台地上に造られています。

長径48.5m、短径39.1mのやや楕円形です。直径約13mもある大型たて穴住居跡や捨て場などのほか、土器や石器、祭祀用の岩版や石剣なども出土しています。

大型たて穴住居跡と環状列石を結ぶ直線上には岩木山があります。



円形に加工された円盤状石製品が約250点も出土しています。環状列石に関するマツリの道具と考えられています。

Q&A

Q この環状列石は
どのように作られたの？

A 丘陵を平坦に整地した後、円丘状に土を盛り、その周りに77基の組石を配置して作られました。組石には円形や、一列に並べたもの、集合させたものなど様々な形があります。

Q 大型たて穴住居の
特徴は？

A 環状列石から南西約100m離れたところに位置し、中央には直径約1.4mの石で囲まれた炉の跡があります。炉の周りには4本の大きな柱の穴が見つかりました。



大型たて穴住居跡

関連展示施設

弘前市裾野地区 体育文化交流センター



建物に入っすぐのロビーの一角に、大森勝山遺跡や、十腰内遺跡、砂沢遺跡など津軽地域の縄文～弥生時代の遺跡を紹介した展示コーナーが設置されています。

ここに
注目!

大森勝山遺跡の土器と石器、発掘当時の写真が展示されています。

開館日時 9時～21時 月曜日(祝日の場合その翌日)・年末年始休館

入館料 無料

住所 弘前市大字十面沢字轡8-9

電話 0172-99-7072



【遺跡に関するお問い合わせ】
弘前市教育委員会文化財課
TEL 0172-82-1642